

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神崎市立千代田東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「『夢に向かって、気づき・考え・行動する』児童の育成」を重点に置き、マナー教室等を実施することができた。その結果「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合99%、「自分にはよいところがある」というアンケートで、1学期88%、2学期は96%であった。向上心や自己肯定感の伸びがみられた。 ・コロナ禍という状況ではあったが、オンライン、規模縮小、内容変更等の工夫を試みながら、学校行事を実施することができた。これらの経験が、教科学習の授業だけでは得ることのできない達成感や協働性、責任感等を向上させることができた。 ・家庭学習の習慣化については、「家での勉強ができている」児童は88%であった。保護者も80.4%が「できている」と答え、一定の成果が見られた。次年度も家庭での生活習慣と併せ、継続して保護者や児童に働きかけていく。

2 学校教育目標	「渾身勉学」「白鳥蘆花に入る」 ～ 「夢に向かって、気づき・考え・行動する」児童の育成 ～
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自分づくり（得意分野をもち、仲間と未来を語る心優しい子の育成） ②仲間づくり（意欲的で、自信をもって自己表現できる子の育成） ③学びづくり（試行錯誤し、根気強く挑戦できる子の育成）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上 (学びづくり)	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイブランの成果指標を達成した教師90%以上	・学期末にマイブランを見直し、共通する課題等を研修会等で共有する。「授業づくりのステップ1・2・3」の振り返りを毎週行い、指導の手立ての確立の促進を図る。	B	・マイブランの達成は60%であった。まずは、児童の実態に応じたマイブランの見直しを行う。また、「授業づくりのステップ1・2・3」のチェックシートの活用及び相互授業参観・フリートークをより推進させる。	A	・マイブランの達成は90%であった。全職員で研修を重ね、課題を共有しながら各学年の指導に生かすことができていた。また、「授業づくりのステップ1・2・3」をもとにフリートークも継続して実施し、指導力向上や児童理解につなげることができた。	A	・学力向上対策評価マイブランの達成率(90%)が高く、理解と実践ができていると評価できる。 ・先生方の努力のたまものだと考える。	学力向上Co
	○家庭学習の習慣化	○「学年にあった時間、家での勉強ができている」と回答する児童75%以上	・毎学期「学習がんばろう週間」を行い、家庭での学習時間と内容の確認を保護者者で行う。「小学生新聞」の活用を、上学年において自読タイム等で行う。	A	・「学習がんばろう週間」「小学生新聞」の実施をすることができた。家庭学習時間を達成した児童が91%だったので、2学期以降も達成できるよう、保護者や児童へ働きかける。	A	・家庭学習時間を達成した児童は85%で、達成することができた。しかし、保護者の回答は73%であった。「学習がんばろう週間」だけでなく、日頃より子どもだけでなく家庭学習が確実にできるよう、お便り「学び通信」や学級通信で今後も働きかける。	A	・児童は、「学習頑張ろう週間」が終了すれば、終わったという印象がある。日頃の学習習慣の必要性の働きかけをさらにお願いしたい。	学力向上Co
●心の教育 (自分づくり)	●児童の「よさを見抜き、認め、伸ばす」支持的風土のある学級・学校づくりの取組	○カード1年間に25枚以上 ○「心タイムアンケート」各項目90%以上	・「心タイム」等で、「ほかほかカード」「心の木カード」を書かせたり、スターシールを活用したり、エンカウンターや「自慢大会」などをしたりすることで、自己肯定感の向上を図る。	A	・「心タイム」でカードを書く時間を設定したことで意欲的にカードを書く児童が増えてきた。自発的によいことをする児童が増え、スターシールの効果が表れている。2学期は新しい内容のエンカウンターに取り組んだり、自慢大会を開催したりする。	A	・「心タイムアンケート」の結果、全項目90%以上達成することができた。ほかほかカードや心の木カード、スターシール、自慢大会の取り組みにより、自己肯定感が高まったと思われる。自慢大会では68%の児童が全校の前で自分の自慢を披露することができ、自信につながった。	A	・アンケート結果や学校だよりにより、十分な心の教育ができていると感じる。 ・スターシールは、良く自慢している。自分に自信がもてる効果的な取り組みだと思う。	自分づくり部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等についての組織的対応ができていると回答した教員95%以上	・毎月1回行う「心アンケート」の結果や気になる子の情報を生徒指導連絡会で全職員と共有する。 ・SCや地域の方を含めた、年2回はいじめ防止対策委員会を行う。	A	・毎月1回「心アンケート」を行い全職員で共有することで、早期に対応することができている。今年度より気になる子の情報交換を行い、共有ができていた。 ・いじめ防止対策委員会を実施し、SCや地域の方とも共有することができている。	A	・職員の学校評価アンケートの結果は100%。月1回の心アンケートや気になる子の情報交換により、全職員で見守り対応することができた。 ・SCのアドバイスをなどにより早期対応ができ、全児童が登校することができている。	A	・不登校ゼロ、いじめについては、早期に対応ができていた。取り組みの成果の表れだと思う。保護者は安心して学校へ送り出すことができている。 ・先生方の気になる児童への心配りが素晴らしい。	生徒指導 教育相談
	○児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合95%以上	・年2回「マナー教室」を実施し、学年や個人に応じた夢や目標を立て、実現に向けて何をどう行うか、考え努力を継続する。	A	・児童アンケート「頑張ることを決め、粘り強く取り組む」(99%)、「自分にはよいところがある」(90%)となり、目標をもって学校生活を送ることができている。また、マナー教室を行い、自分の考えや思いをはっきり表現することが低学年から意識できている。	A	・児童アンケート「頑張ることを決め、粘り強く取り組む」項目が97%となった。マナー教室で具体的な目標を立て、継続して取り組んできたことで、目標実現に向けて努力することができている。次年度も目標を立て、学校生活を送れるよう働きかける。	A	・マナー教室は、子供たちに大人気で、緊張したけど頑張れたなどの声が聞かれた。今後もぜひ継続してほしい。 ・小規模校だからできる素晴らしい取り組みだと思う。	教務主任 校内研究主任 道徳主任
●健康・体づくり (仲間づくり)	●仲間のよさが実感できる体験活動の充実	○「友達と力を合わせて、生活や勉強ができている」と回答する児童の割合95%以上 ○「昼休み外で元気に遊んでいる」と回答する児童の割合90%以上	・縦割り活動を充実させるため、縦割り班対抗の種目を児童が主体的に計画し、実行する。 ・縦割り班を有効に活用し、体育的行事やスポーツチャレンジによる体づくりへの取組を行う。	A	・アンケート結果は99%だった。保健運動委員会が「縦割り班対抗しほり大会」を企画・実施したが、熱中症対策のため、後半は2学期に延期した。 ・熱中症指数が高い日が続く、外で遊べない日が多く、アンケート結果は85%となった。2学期は、体育大会での練習やスポーツチャレンジの奨励を積極的に行い、90%を超えることを目指す。	A	・「友達と協力して生活できている」のアンケート結果は100%だった。 ・アンケート結果は91%だった。全学年がスポーツチャレンジの取組を行っており、運動の楽しさを味わうことができていた。今後も運動の習慣が身に付くよう、「運動がんばろう週間」の取組みを行っていく。	A	・いろいろな取り組みにより、友達を思いやる優しい子供が多いと感じる。 ・大切なことをいつも教えていただいているようだ。今後は是非継続してほしい。継続していくことが重要だと思う。	仲間づくり部 体育主任
	●「白鳥蘆花に入る」の精神が生きるボランティア活動の充実	○ボランティアパスポート1冊以上100% ○進んで元気なあいさつをする児童、あいさつ運動に取り組む児童90%以上	・ボランティア集会や放送で、ボランティアについて伝え、全児童が自主的にボランティア活動に取り組むようにする。 ・あいさつやあいさつ運動など、よい行いをしている児童を各学級や全校朝会などで紹介する。	B	・ボランティア活動に関して、保護者、職員の意識は高い。児童も、自主的にボランティア活動に取り組んでいるが、ボランティアパスポートに3枚以上シールを貼っている児童が81%である。全児童が、ボランティアパスポート一冊以上取り組むよう放送、朝会等で呼びかける。ボランティア活動に積極的に取り組んでいる児童を紹介し、活動への意欲を高める。	A	・自主的にボランティア活動に取り組むことがふえ、全児童がボランティアパスポート1冊以上終えることができた。赤い羽根の募金やクリーン作戦など、地域のためになることを考えて取り組む児童も多かった。 ・高学年の児童は、あいさつや清掃活動等、他学年の手本となっている。	A	・通学時、信号機のある横断歩道を渡り終えた後、車の方にお礼をしている様子を見た。素晴らしいなあと感じた。 ・登下校でのあいさつ、お互い手を振る等、コミュニケーションが良くてきている。	仲間づくり部 ボランティア美化委員会
	●「望ましい生活習慣の形成」	○学年に応じた就寝時刻を守る児童の割合85%以上	・月1回の保健だよりや長期休業前の生活の話などを通して、基本的な生活習慣の大切さ(家庭での過ごし方)を啓発していく。	A	・保健便りや長期休業前の話、学級指導で啓発し、望ましい生活習慣が向上している。学校生活アンケートの「早く寝ることができている」と答えた児童は89.4%だった。児童や保護者への意識は確実に定着している。今後も継続して「ほげん日より」で家庭へ啓発していく。	A	・保健便りや長期休業前の話、学級指導で啓発し、望ましい生活習慣が向上している。学校生活アンケートの「早く寝ることができている」と答えた児童は89.4%だった。児童や保護者への意識は確実に定着している。今後も継続して「ほげん日より」で家庭へ啓発していく。	A	・生活習慣等の指導がよくなされていると思う。 ・社会の変化により、共働きの家庭が増えている中で、「早く寝ることができている」(89.4%)は、家庭の努力の賜物だと思う。今後も家庭との連携をお願いしたい。	生徒指導 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間等の上限の遵守	・18:15の全職員退勤時刻と毎週金曜日の定時退勤日を周知徹底し、必ず18:00に声掛けを行う。(退勤予定時刻の記載)	B	・毎週金曜日の定時退勤日は、概ね守ることができた。しかし平日の退勤時刻は、退勤予定時刻の記入での意識付けがもう少しの状況だった。更に退勤時刻(18:00)の声掛けを強く行っていく。	B	・毎週金曜日の提示退勤日は、18:00に実施することができるようになってきた。平日も極端に遅く退勤する職員は少ない。しかし、時間外平均40時間を超える職員が8月時点(4名)、12月時点(6名)と増加した。更に具体的な対応(早めに退勤する日とあと1日増やす等)を取っていく。	A	・最近の学校は、夜遅くまで灯りが点いていることが少なくなっている。働き方改革等で努力されていると感じる。しかし、必要な時は、遅くまで相談対応を行っている。	教頭
	○働きやすく、疲労蓄積の低減を目指す働き方改革の推進	○「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合15%未満	・朝の体温と健康状態に加え、退勤予定時刻を出動時に記入し、仕事の効率化を図る。	A	・7月上旬に「疲労蓄積度チェック」を実施し、「やや高い」以上の職員が7名(46%)という結果だった。本校職員の高齢化を踏まえ、2学期以降も積極的に声をかけていくようにしたい。	A	・7月の「疲労蓄積度チェック」では、「やや高い」以上の職員が7名(46%)だった。しかし、1月の実施では、3名(16%)に減少した。学校での業務は減っているわけではないが、職員室の雰囲気がよく、気持ち良く仕事ができていると考える。	A	・教職員の仲の良さや職員室の雰囲気の良さを感じる。子供たちのことをしっかり共通理解されて、対応されているように感じる。	教頭 養護教諭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域の特色を生かした教育 (仲間づくり)	○地域教材の活用 (「次郎の里」教育の実践)	○「千代田の町や人が好きです」と回答する児童95%以上	・下村湖人生体体験学習を、各学年1回実施する。 ・「次郎週間」「次郎とのふれあい遠足」「次郎集会」を設定し、郷土を愛する心を育む。	A	・「次郎集会」では、地域の方からの話を聞き、さらに学習を深めることができた。「千代田の町や人が好きです」と回答した児童は97%だった。総合や生活科で千代田町に触れる実践を行っていく。	A	・アンケートの結果「千代田の町や人が好きです」と回答した児童は98%だった。総合での地元農家の学習や生活科での地域企業での学習、次郎週間、次郎タイムの設定を行った。次年度も地域に根ざした学習を行っていく。	A	・郷土愛をしっかりと身に付けさせてもらっていると感じる。今後も継続をお願いしたい。 ・「ちとせ」の懐かしい地域名を使ってもらっているので地域に住んでいる一人として嬉しく感じる。	特別活動主任 教務主任

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・「『夢に向かって、気づき・考え・行動する』児童の育成」の目標達成に向け、学力向上対策、ボランティア活動の取組、マナー教室等を実施することができた。その結果「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合97%、「自分にはよいところがある」と回答した児童91%というアンケート結果であった。向上心や自己肯定感の伸びがみられ、今後も維持できるように取り組むことを継続していく。 ・本年度もコロナ禍という状況で、オンライン、規模縮小、内容変更等の工夫を試みながら、学校行事をほぼ予定通り実施することができた。これらの経験が、教科学習の授業だけでは得ることのできない達成感や協働性、責任感等を向上させることができた。 ・家庭学習の習慣化については、「家での勉強ができている」児童は85%であった。保護者も77.2%が「できている」と答え、一定の成果が見られた。次年度も家庭での生活習慣と併せ、継続して保護者や児童に働きかけていく。また、一人一台端末を効果的に活用した家庭学習の在り方についても検討していく。
----------------	--

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育